

友好

ヨ-ハオ

北海道日中経済友好協会会報

「友好」第35号

令和2年5月25日発行

一般社団法人北海道日中経済友好協会
札幌市東区北43条東1丁目6-10 明哲ビル
TEL 011-299-1885 FAX 299-1886

難局を乗り切る 交流の歴史が紡いだ絆

北海道日中経済友好協会 会長 木村 輝 美

第7代会長に就任して、早くも1年が経ちました。この間、会員の皆様にさまざまな事業を通してご支援、ご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

厳しい状況だからこそ

改めて申し上げるまでもなく、新型コロナウイルスの感染が世界中に蔓延。日常生活はもとより、人々や物資の往来など、国内外の経済活動に甚大な被害を与えています。

とりわけ日本と中国が様々な分野における活発な交流を背景に築き上げてきた、互いに補完関係にある経済システムへの打撃は計り知れません。

いち早く影響が出たのは、中国人観光客の激減です。ホテル、飲食、土産、交通など、1年前には想像すらできなかった事態になりました。裾野の広い観光事業が、いかに中国の人たちによって支えられていたのか、改めて気付かされます。

厳しい状況の中でも、私たちは下を向いているわけにはいきません。

こうした時こそ、長年にわたる中国との交流を通じて多くの人脈を築いてきた当協会が果たすべき役割の大きさに、身の引き締まる思いです。



義援金117万円を中国へ。私たちにはマスクが

新型コロナウイルスが中国で猛威を振るい出した直後に、当協会はいち早く中国に義援金を贈ることを決定。会員に広く呼びかけたところ、117万円の浄財が集まりました。

2月18日に中国総領事館を訪問し、マスクや医療機材の購入に充てていただくよう、孫振勇総領事に託しました。

それから2カ月。事態は一転。日本全国に新型コロナウイルスが蔓延し、北海道も未曾有の危機に襲われています。すると今度は中国総領事館が多くのマスクを当協会に贈って下さり、私たちにとっては、まさに「早天の慈雨」となりました。これまでに培ってきた友好の絆の大切さ、有難さを感じております。

両国の経済交流が一日も早く、以前のような姿に戻ることができるよう、今こそ会員の皆さまと力を尽くしていく所存であります。

中国への新型コロナウイルス義援金協力会員

10万円

会 社 名	代表者名
(株) ロジネットジャパン	木村 輝美
(株) 財界さっぽろ	舟本 秀男
伊藤組土建 (株)	伊藤 義郎

5万円

村松法律事務所	村松 康弘
キャリアバンク (株)	佐藤 良雄
パワーリンク (株) 札幌支社	吉田 正博
(株) サッポロドラッグストアー	富山 睦浩
野口観光 (株)	野口 秀夫
(株) 北海道新聞社	広瀬 兼三

4万円

一達国際 (株)	牟 治
(株) L N J ロジスティックス	大森 雅行

3万円

札幌駅総合開発 (株)	平川 俊彦
一達国際 (株)	河本 文治
(株) 田中組	松村 敏文
(株) 竹原鉄工所	竹原 巖
(株) ニュートレーディングブリッジ	須藤 昌章
栄光通信機 (株)	山田 清司

2万円

(株) メディア・マジック	里見 英樹
名越税務会計事務所	名越 隆雄
シティ環境 (株)	政田 治彦
MT J 観光 (株)	加藤 哲
ニード設計室	中田 繁一

1万円

会 社 名	代表者名
北海道文化団体協議会	武井 文夫
(株) 総合開発設計	川幡 宏一
(有) 椿武愛子オフィス	椿武 愛子
サッポロビール(株)札幌本社	小野寺哲也
シー・アイ・イー (株)	田 義之
(株) 北海道チャイナワーク	張 相律
(株) L N J 自工	榎本 義彦
(公財) 北海道観光振興機構	堰八 義博
北海道放送 (株)	勝田 直樹
(株) ネイビーズ・クリエイション	高橋 満治
北海道車体 (株)	杉村 豊治
(株) L N J 商事	橋本 潤美
北海道いすゞ自動車 (株)	千葉 哲男
三機工業(株) 北海道支店	苅部 郁生
(株) マキ商会	小川 眞治
UDトラックス北海道(株)	大内 茂夫
(株) イークラフトマン	新山 将督
北海道日野自動車(株)	清水 正夫
J R 北海道ホテルズ(株)	石見 誠嗣
(株) L N J さくらスマイル	柏木 稔
プレミアムホテル中島公園札幌	原田 博
税理士法人 共明会計	野田 稔
秀欧会福祉サービス (株)	對馬 靖和

山川異域、風月同天

北海道日中経済友好協会 副会長 舟本秀男



街々に鐘が鳴り響き、高層ビル街が久しぶりにライトアップ。人々の笑顔がテレビに映し出されています。

2020年3月8日（本レポート記載の日）、中国湖北省武漢市の封鎖が解除されました。

昨年末、武漢で発生した新型コロナウイルスは中国で8万人以上の感染者、3千人以上の死者を出し、ヨーロッパ、米国に急速に蔓延しています。

本日（4月8日）現在、世界での感染者数は140万人を超え、死者も8万人を上回るという猛威を振るっており、まさに、世界中がコロナとの戦争状態の有様です。

当初発生したと言われている武漢は本年1月23日に封鎖され、1100万人の武漢市民は塗炭の苦しみを味わうことになりました。武漢市および全国から集められた医療従事者も多数が感染し、亡くなられた方々も多いと聞いています。

このような悲惨な状況の中でも、武漢市民は力を合わせ、目に見えないコロナ菌と果敢に

戦った様子が報道されています。

10日間で1000名の重篤患者を収容する仮設病院を建設、1000人以上のボランティアが自動車を提供し医療従事者の送迎に従事、多くのホテルが施設を提供し看護師を支援し、レストランも医師たちに食事を届けるサービスを提供したりしているとのこと。封鎖された武漢市民に食料品などの生活必需品を提供するため、数万人がボランティアとして活動したとのこと。

日本からも多くの団体や企業がマスクなどの医療物資を寄付し、武漢市民を支援しました。

中国では、日本から届られた医療物資に「山川異域、風月同天」と書かれているのに大変感激し、感謝していると報道されています。

「山川異域、風月同天、寄諸仏子、共結来縁」は、「山川は違えど同じ風が吹き、同じ月を見る。この袈裟（けさ）を仏の教えを学んでいる皆様にお送りします。場所は違っていても同じ自然や志でつながっています」という意味とのこと。

今から1300年前、仏の国を目指した聖武天皇・長屋王（ながやのおおきみ）は、日本で真の仏教の教え普及しようと、中国の高僧を日本に派遣してもらいたいと願い、部下の僧・栄叡（えいよう）と普照（ふしょう）を唐に派遣しました。その時に寄進したのが千着の袈裟でした。

この袈裟には「山川異域、風月同天」と記された刺繍が施されておりました。時の唐の高僧鑑真（がんじん）は、この句にいたく感動し、

自らが日本に渡り仏法を広める決心をしました。

鑑真は5度にわたり日本への渡航を試みましたが、安否を気遣う部下の引き留めや役人の渡航阻止により実現しませんでした。この間に鑑真は失明してしまいます。

6度目の755年、日本からの遣唐使の帰国に合わせ密航。ようやく日本に到着し、聖武上皇らの歓待を受けました。この時鑑真は66歳になっていました。

鑑真は76歳で亡くなるまでの10年間、5年は奈良東大寺（大仏殿）に住み、聖武上皇や多くの僧侶に仏教の神髄を教え、また唐招提寺を建立します。5年間住んだ唐招提寺には今も鑑真の像が祀られています。

「山川異域…」の一件を聞き、1300年前からの日本と中国の間の親密な文化交流が思い起こされました。

在札幌中国総領事の孫振勇氏は、「雨過ぎて天晴る。疫病は一時的であるが、友情は永遠に続きます。我々は日本を含む国際社会の理解と支持に感謝を申し上げます」と語っておられます。

中国は新型コロナウイルスを懸命な努力で抑え込み、現在は感染者数及び死亡者数ともに発生件数がゼロの日が続き、今般、武漢では待ちに待った封鎖が解除されまただのです。北京にも車の渋滞が見られるようになり、コロナとの戦いに勝利したという高揚感が溢れていると報道されています。

一方、昨日（4月7日）、東京など7都府県に「緊急事態宣言」が発令されました。私たちはまだしばらくの間、耐え忍ばなければならない日々が続くでしょう。

この度の新型コロナウイルスは世界中に多くの人的被害を、さらに2007～08年のリーマンショックを大きく上回る経済的損失をもたらすと予測されています。特に、訪日観光客需要に多くの部分を委ねている北海道経済への影響は甚大であると認識しなければいけません。

ただし、中国では新型コロナウイルスからの復興が始まっています。北海道も一時懸念された状況からの改善が進んでいます。

「山川異域」の思いを共にする中国と北海道の間に、これまでのような活況を呈した人的交流の 때가近いことでしょう。

会 員 募 集

一般社団法人北海道日中経済友好協会では、
現在会員（法人・個人）を募集しています。
詳細は協会事務局までお問合せ下さい。

一般社団法人北海道日中経済友好協会
事務局 電話 0 1 1 - 2 9 9 - 1 8 8 5

2019-20年度 協会の歩み

■5月14日（火） 定例総会と会員交流会を開催

令和元年度の定例総会を札幌通運ビルで開催。1年間の事業案、予算案の審議に加えて役員改選が行われ、新会長に木村輝美副会長が第7代会長に選出されました。

総会後は札幌ビューホテル大通公園に会場を移して会員交流会を開催。中田博幸前会長、木村輝美新会長を囲み、和やかに歓談が行われました。



■8月3日（土） チャリティーゴルフコンペを開催

第19回中国総領事杯チャリティーゴルフコンペをダイナスティゴルフクラブ北広島で開催し、会員15人が参加。抜けるような快晴に恵まれ、日頃磨いたゴルフの腕前を披露していただきました。

恒例となったOBなどのペナルティーで集まったチャリティーの金額は10,400円となり、全額を留学生支援資金として協会に寄付しました。

優勝は当協会理事の田義之さんで、中国総領事杯のカップを手に入れました。

また会員企業から、商品券、ファイターズの観戦チケット、ミネラルウォーター、ペアホテル食事券など、たくさんの協賛賞品をご提供いただきました。



■8月7日（水） 中国総領事館との「交流の夕べ」を開催

中華人民共和国駐札幌総領事館において、孫振勇総領事ご出席のもと、日中友好と経済交流の促進をはかるため「交流の夕べ」を開催しました。会員、来賓、留学生等68人の参加があり、終始和やかな雰囲気の中で、総領事館員のみなさんとの交流が行われました。

併せて令和元年度の、中国私費留学生5人に対する奨学金（前期分1人20万円）の贈呈式を

行い、木村輝美会長から一人ひとりに奨学金が手渡されました。留学生からは、自己紹介と留学にかける意気込み、日中友好の架け橋となる思いなどのスピーチがありました。



■8月30日（金）～9月5日（木）
第19回中国経済視察研修を実施

今回も中国総領事館の招請により中国経済視察研修を実施。木村輝美会長を団長に、総勢15人が参加しました。一行は、北京、敦煌、保定を訪問。中でも、河北省保定市に建設中の新たな経済開発区の「雄安新区」は今後の中国発展の中核になることが期待されている経済開発区で、建設が進む“近未来都市”をいち早く視察できたことは、非常に有意義でありました。敦煌では世界遺産を核とする観光事業を視察、北京では中日友好協会を表敬訪問しました。



■12月3日（火）
留学生セミナーの開催

就職を控えた中国人留学生を対象にしたセミナーをキャリアバンク（株）会議室において開催し、道内の大学で学ぶ留学生15人が参加しました。

講師は当協会の佐藤良雄専務理事と滝沢敏行会員が務め、日本で就職するに当たっての留意点や心構え、在留資格変更に関する具体的な注意事項などが、事例を交えて紹介されました。参加した留学生からは具体的・实际的で非常に分かりやすく、大変有意義なセミナーだったと感想が寄せられました。

また、セミナーに引き続き留学生との交流会を開催。留学生15人に加え、協会の会員19人も参加し、テーブルごとにお弁当を広げて会食をしながら、就職や札幌での生活について楽しく懇談しました。



■12月18日（水）
北海道・中国経済セミナーを開催

講師に孫振勇中国駐札幌総領事を迎え、札幌ビューホテル大通公園で開催しました。講演テーマは「中国と北海道との経済・観光交流の現状と展望について」で、4年間に及ぶ北海道での駐在経験に裏打ちされた見識により、様々な

角度からの貴重な意見を聞くことができました。

会員46人が出席し、セミナー終了後には懇親会を開催。孫振勇総領事、張哲妍経済担当領事を囲んで、和やかに懇談が行われました。



■1月23日（木）新年交礼会を開催

令和初となる新年交礼会をプレミアムホテル中島公園札幌において開催。中国総領事館からは、孫振勇総領事ご夫妻にご出席いただきました。

当日は、来賓、会員、留学生等48人の参加があり、初春にふさわしい雰囲気の中で新年を祝いました。

併せて今年度の中国私費留学生5人に対する奨学金（後期分1人20万円）の贈呈式を行いました。留学生たちは、木村輝美会長、孫振勇総領事ご夫妻と記念撮影を行ったあと、奨学金取

得後の勉強や生活の状況、来日後の日本への感想など、有意義な留学生生活をスピーチしてもらいました。



第19回中国経済視察報告/2019. 8. 30 ~ 9. 5

古代と近未来の“二都物語”に改めて知る中国のスケール感

北海道日中経済友好協会理事 武井 文夫

茫漠たるゴビの荒地と砂漠が、遙か地平線に霞む機上からの景色は、変わることなく1時間も続いたであろうか。そんななか、オアシス都市・敦煌は突然現れた。初めて訪れる世界的観光地での4日間の始まりに胸が躍る。

莫高窟、鳴沙山、西千佛洞、ヤルダン国家地質公園、陽関、玉門関、漢代の万里の長城など、見どころの豊富さは言わずもがな。それぞれの説明はガイドブックに譲るとして、観光都市として学ぶ点が多かった滞在を振り返る。

敦煌市内の夜市は土産品、小間物、干し葡萄や果物、漢方植物などを扱う小さなブースが1キロほど連なる歩行者専用道路を中心に、周囲の商店、飲食店などを含めた一帯が“夜市”となっている。屋外レストランの清潔感や客引きがない安心感など、滞在中は毎晩足を運んでしまった。一般市民が普通に利用している場所こそが、観光客に足を向けさせる強い吸引力になることを証明している。

鳴沙山では靴の上からカバーを履き、砂の侵入を防ぐ。レンタルの靴カバーは使い終わると、その場に脱ぎ捨てるだけでOK。付近にいるスタッフが直ちに回収してくれる。その心地良いタイミングが嬉しい。

古代から交易で栄えた敦煌。そこで生み出された莫大な富が、世界遺産・莫高窟を誕生させた。そして2千年の時を経て、今度は莫高窟が観光で現代の敦煌に富をもたらす。中国の壮大

な歴史ストーリーが織りなす綾だろうか。



北京に戻り、今回の研修の柱である「雄安新区」の視察に臨む。河北省保定市の近郊にあり、北京からは日帰りの距離だ。深圳、浦東に続く経済開発区として、習近平主席肝煎りの国家級事業であり「千年の大計」と位置づけられている。北京、天津、河北を経済的に一体化させる発展で国際競争力を高め、併せて北京の人口抑制も図るなど、その役割は大きい。

私たちのバスは新区の入り口駐車場まで。新区内は電気自動車以外は走行禁止のため、乗り換えて市民サービスセンターへ。雄安新区の全体計画が映像やパネルで詳しく紹介されており、計画段階に4人の日本人技術者が関わっていることを知る。

任達治党政弁公室副主任の説明では、先端産業やエコロジーの企業、研究機関、医療施設など、2000社が進出の登録をしているとのこと。新区内はインフラ整備の終盤を迎え、建物の数

はまだ少ないが、店員ゼロのスーパーマーケットが開業するなど、目標人口500万人のスマートシティは着実に動き出している。

敦煌は2千年の古都、雄安新区は千年先を見据えた近未来都市で、合わせて3千年である。参加団員の多くが敦煌夜市で印鑑を作った。印材は、「生きて千年枯れず、枯れて千年倒れず、倒れて千年腐らず」といわれる胡楊の木。胡楊の暗示か、期せずして今回の2都市訪問で、中国のこれまでとこれからの3千年の間に立つという、貴重な体験となった。

今回も実り多い研修になったことは、中国駐札幌総領事館の孫振勇総領事をはじめとする総領事館の皆様のご支持、ご協力によって実現できたことは言うまでもない。



第19回中国経済視察研修日程

日程	日付	曜日	旅 程	
1	8月30日	金	新千歳発 13:50 (CA170便) → 北京着 17:05	長富宮飯店泊
2	8月31日	土	北京発 6:40 (CA1287便) → 敦煌着 10:10 博物館・西千佛洞・陽関など視察	敦煌太陽大酒店泊
3	9月1日	日	莫高窟・鳴沙山などを視察	敦煌太陽大酒店泊
4	9月2日	月	玉門関、万里の長城などを視察	敦煌太陽大酒店泊
5	9月3日	火	敦煌発 11:00 (CA12:88便) → 北京着 13:45 午後 王府井観光など 夕食: 現地駐在員との交流会	長富宮飯店泊
6	9月4日	水	河北省保定市「雄安新区」などを視察	長富宮飯店泊
7	9月5日	木	北京発 8:00 (CA169便) → 新千歳着 12:50	

第19回中国経済視察研修参加者名簿

No		氏 名	会 社 名	役 職
1	団 長	木村 輝美	(株) ロジネットジャパン	代表取締役
2		木村 桂子		夫人
3	副団長	村松 弘康	村松法律事務所	所長
4	秘書長	吉田 正博	パワーリンク (株) 札幌支社	支社長
5		武井 文夫	北海道文化団体協議会	ゼネラルアドバイザー
6		里見 英樹	(株) メディア・マジック	代表取締役
7		里見 翼	(株) メディア・マジック	
8		阿部 淳一	(株) ロジネットジャパン	総務人事統括部長
9		澤口 和人	シティ環境 (株)	常務取締役
10		竹原 巖	タケハラホールディングス (株)	取締役会長
11		中田 繁一	ニード設計室	代表取締役
12		新山 将督	(株) イークラフトマン	代表取締役
13		野田 稔	税理士法人 共明会計	代表
14		水口 千秋	(株) ネクステップ	代表取締役
15	秘 書	加藤 淑子	北海道日中経済友好協会	事務局員

中国経済視察研修風景



孫振勇中国総領事の見送りを受けた、新千歳空港での出発式



シルクロードの隊商気分を味わえる、敦煌でのラクダツアー



世界遺産として多くの観光客を魅了する敦煌莫高窟



敦煌夜市で賑わう屋外レストラン。西域ならではのメニューも豊富



北海道新聞北京駐在員を招いて開催した現地事情講演会



新たな中国経済の牽引役として期待される「雄安新区」



北京の王府井では、飲食街の再開発が行なわれていた



帰国後、中国総領事夫妻を招いて開催した報告会

令和元年度 中国私費留学生支援奨学金授与事業<報告>

一般社団法人北海道日中経済友好協会

1. 公益財団法人似鳥国際奨学財団からの助成

公益財団法人似鳥国際奨学財団に対し、平成30年12月に助成申請を行い、平成31年4月に同財団選定委員会より助成金200万円の支給決定を受けました。

2. 助成金の使途

同財団からの助成金200万円の全額を、北海道日中経済友好協会が令和元年度事業として実施する給付型奨学金支給事業の原資として活用することに決定。支給対象は私費で来日して北海道内で学ぶ中国人留学生で、公募により選考する5人とし、支給額は1人につき40万円（前期20万円、後期20万円）としました。

3. 奨学生の募集と選考

令和元年5月1日に道内の10大学へ募集案内を送付しました。

送付大学

北海道大学／北海道教育大学／小樽商科大学／北海学園大学／札幌国際大学／

札幌学院大学／北海道科学大学／酪農学園大学／苫小牧駒澤大学／北海道文教大学

その結果、56人から応募があり、書類選考と7月20日の面接選考により、下記の5人に決定しました。

高 鴻志（男・山東省）札幌大学

王 新萌（男・河南省）北海道大学大学院

羅 雲潔（女・貴州省）北海道大学大学院

王 澤琛（男・山東省）札幌大学

呉 雪萌（女・遼寧省）北海道文教大学

令和元年度奨学生「私の留学目的」



高 鴻 志

山東省出身
札幌大学

私が日本へ留学することを決めた理由は2つあります。1つ目に、私は中国の山東省に生まれました。みなさんは山東省についてはよく知らないかもしれませんが。山東省は人口数が非常に多いですが、学校は人口に対して少ないです。進学圧力はずっと全国の上位になっています。良い学校に行くことは、なかなか難しいです。

2つ目に、私の父は外交官です。小さい時から日本語を教えてもらいました。私は小学校を卒業した後に、両親は大阪へ行って、中国駐大阪総領事館の商務担当領事に就任しました。両親からよく日本のことを聞いて、日本に非常に興味を持ちました。自分も両親が働いているところを見に行きたいです。両親は日本教育のレベルは非常に高いし、社会の治安と環境はとても良いと思っています。日本の先進的な知識と理念や日本の思いやりを勉強したいので、日本に留学しに来ました。

札幌に来て、地元の語学学校に6カ月ぐらい通って、日本語能力試験N2に合格しました。その後、札幌大学に入学して、今、私は大学4年生です。4年前に日本に来たのですが、この数年の大学生活を通して、たくさんの知識を得ました。大学に入ったばかりの頃は言葉の問題で、成績もあまり理想的ではありませんでした。この数年の努力によって、日本語も授業も慣れました。

時間が経つのは実に早いです。大学の生活があっという間に幕を閉じようとしています。現在はすでに4年生になりました。卒業後、私は就職をしたいと思います。

また、仕事では、やはり日本語と日本で学んだ

ことを活用したいです。ですから、これからの時間を利用して、企業のインターンシップに参加して、自分の能力を上げたいです。札幌大学に入学した後、私はずっと株式会社コクミンでアルバイトをしてきました。アルバイトをしているうちに、店長と同僚とさまざまな交流をして、仕事の経験、社会的経験を身に付けました。

ここ数年、日本での勉強を経て、視野を広げて、経営学に関する知識を学びました。来年私は卒業になります。その時に貿易に関する会社で実習をしようと思っています。実践的な経験を身に付けたいです。今は学校で経営学を勉強すると同時に、日本の会社の運営に関する知識や、特に中日の貿易に関する知識に非常に興味を持っています。勉強する合間に、私はその知識をよく勉強してきました。同時にアルバイト及びいろいろな社会活動にも参加しています。卒業した後は学んだ知識を活用して中日貿易会社を経営したいです。貿易を通じて両国間の経済発展のために微力を尽くしていくと同時に、中日友好に架け橋の役割を發揮したいと思います。



王 新 萌

河南省出身
北海道大学大学院

私は母国で大学を卒業して、日本の先進的な科学技術とトップレベルの管理技術に興味があったので、もっと深く日本について知るチャンスを得ようと留学を決意しました。

来日後に先生や学生と付き合っていく中で、日本人の研究についての態度がまじめで、小さいことに対しても非常に真剣な態度で臨むことが分かりました。これは日本の科学技術が発展した理由

の一つだろうと思っています。

一方、私も中日の青年交流を促進するために力を尽くしたいと思っています。もし中日の若者がお互いに理解し合えなければ両国の将来は暗いでしょう。ですから若者の相互理解を促すようなイベントに多く参加したいと思います。

中国と日本は一衣帯水の隣国である。日中関係は両国民の利益だけではなく、アジア太平洋地域の平和と繁栄にも関わっている。特に、去年「日中平和友好条約」締結40周年の記念でした。5月に李克強総理が日本を公式訪問し、10月の安倍晋三首相の公式訪問により、両国関係は新たな発展の道を歩み始めています。両国間の貿易や経済交流、文化及び人的交流はますます深まっている。将来に、日本社会をよく理解し、母国語、日本語など複数の言語を話すことができる人は有利だと考えています。



羅 雲 潔

貴州省出身

北海道大学大学院

私は「看護学」に関する研究に携わり、世の中の人たちに貢献したいと考えている。中国で大連医科大学の看護学を専攻したが、特に小児看護の分野に強い関心を持ってきた。大連医科大学の卒業を機に、より高水準な教育・研究環境で自分を磨きたいと考え、海外留学を決意した。

私がこの分野に興味を持つようになったのは、大学4年生の時、中国大連にある大連医科大学附属第二病院の小児科とP I C Uで実習をしたことがきっかけだ。この時に「疾患や障害を抱える患児とその家族のストレス反応」について関心を持った。重篤な疾患や障害を抱える小児の家族へのケアはとても重要で、その小児に対しても家族は重要な役割を担っていると考えられるようになったからだ。しかし、現在の中国では小児看護と家族

の支援に関する研究は非常に少ないのが現状だ。

この点、現在、急速な少子高齢化を経験している日本社会は、中国にとっても好事例だ。少子高齢化に伴う日本の急激な人口構成の変化は、今後の中国も同じように経験すると考える。さらに今後、急激な人口構成の変化に伴い、社会を成り立たせている家族の構成にも変化が起こることが想定されるが、こうした状況下で小児看護における家族支援などがさらに重要となるはずである。しかし、現在の中国では小児看護と家族支援に関する研究は非常に少ないのが現状である。私はこの分野で研究成果を蓄積することで、医療者の関心を高め、現場に還元できる成果を生み出すことができると考えている。中国における小児看護及び小児看護における家族支援の発展を目指したい。

北海道大学大学院保健科学院は看護学分野の専門知識を深く探求・研究するだけでなく、専門分野を超え世界の保健学研究をリードするような研究者の育成に力を入れている。このようなところから、私は北海道大学を希望して、日本への留学を決意した。

大学院終了後は、看護学の研究を続けることを希望している。そのため、修士課程終了後は博士課程に進学し、博士号を取得したいと考えている。また、博士課程終了後は、看護学の研究と教育に携わりたいと考えている。



王 澤 琛

山東省出身

札幌大学

1. 理由・目的：新しい言語を学びたいから

新しい言語を学ぶと、それだけコミュニケーションをとることができる人々が増えます。例えば、英語を学ぶことを例にします。英語は世界の中で、共通の言語として使われています。

また、日本に来ている外国人ともコミュニケー

ションを取れるようになります。職場によっては、日本人だけでなく外国人とも一緒に働くというところも増えてきていると思います。英語が使えるようになれば、その方々とも意思疎通を図ることができるので、仕事をスムーズに行えるようになります。

2. 理由・目的：世界中に友人を作るため

留学先には、世界中から留学生が来ています。留学生という境遇から、自然と意気投合することや場面がたくさんあります。また、授業中のグループワークや寮でのルームシェアなどを通して、お互いに助け合い、友情や絆も深まると思います。

例えば海外の、特に学部留学の授業ではレポートやプレゼンテーションなど、多くの課題をこなす必要があります。到底、自分一人の力では全部の課題をこなすことができません。

そこで、スタディ・グループと言われる研究会に入ることがあります。これは、同じクラスを履修している学生同士が集まって、お互いに勉強を教え合う研究会のことです。お互いに勉強を教え合う中で、意見を交換することも多いので、スタディ・グループの枠を越えて仲良くなることがあります。

3. 理由・目的：視野を広げるため

一つの国にいと、その国の文化や習慣が基準となり、当たり前になってしまいます。特に、中国にいと、他の国の文化や習慣に触れることがあまり多くありません。しかし、海外に行くと、中国と違った文化や習慣に日常的に触れることになります。

今まで関わることのなかった文化や習慣に触れることで、これまでになかった物事の考え方や視点を備えることができるので、自分自身のアップデートにつながると考えています。

4. 理由・目的：海外での暮らしを経験したいから

海外での生活は、ただの観光するだけといった海外旅行とは大きく異なります。旅行や観光では

その国の一部分しか知ることができません。

しかし、留学では勉強をすることはもちろん、海外で生活して暮らすということも同時に体験できます。暮らしの中で、色んな文化や風習に触れることも刺激となり醍醐味となると思います。

また、日本とは勝手が違う海外で日常生活を送ることで、日本では予測できないような事態に遭遇することもよくあります。海外でトラブルに遭遇すると、自分で対応することが求められるので、臨機応変にその場で行動する力も自然と身につけることができると思います。将来の生活のためには、このような経験が必要です。



呉 雪 萌

遼寧省出身

北海道文教大学

13歳の夏休み、にぎやかな夜市で「テニスの王子様」というアニメに出会いました。二次元の中に綺麗な町や魅力があります。あの頃から日本という国に興味を持ちました。

「もっといい人になりたい」というテーマは、日本に来る前に参加した弁論大会のテーマです。中国では20年生活して、自分には満足できず、海外に行ってもっと優秀な人になるために日本に来ました。

大学2年生のとき、瀋陽中日伝統芸能合同公演にボランティアとして、日本と中国の文化の共通点を感じました。ですが、同じくアジアの国で、顔も文字も似ている日本は、想像より違います。生まれた環境、文化、習慣も違い、教え方もやり方も大分変化しています。日本と中国の歴史の中で、日本人と中国人との関係も変化しています。ここに来てもうすぐ2年。日本語を勉強するためにアルバイトに励んでいます。

これからも、合同公演のように、日本と中国がつながり、お互いに理解できるように頑張ります。